



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第100回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

○ アピールプレイ(野手編・まとめ)

今回は、野手編の締めくくりとして、「アピールプレイ」について考えてみたいと思います。

高校野球などの試合でよく目にするアピールプレイとしては、①タッグアップ時のリタッチ(触塁)、②走者の塁の空過が挙げられると思いますが、まず、最初に野手の「アピールの方法」について確認しましょう。

〔事例1〕0アウト走者2塁。打球はライトフライ。右翼手がフライを捕球。2塁走者はタッグアップで3塁へ進みました。
2塁走者のリタッチが早いと思った野手はどのようにアピールをすればよいでしょうか。

アピールの方法には、次の2通りがあります。①野手は、アピールの原因となった塁(この事例は2塁)にボールを持って触球することでアピールをすることができます。実際のゲームにおいては、この方法でアピールすることが多いのではないのでしょうか。②また、3塁へ進んだ走者の身体に触球するアピールの方法があります。

この事例では、野手は3塁審に対してアピールすることになりますが、このプレイを裁定するのは、2塁走者のリタッチを確認していた2塁審が判断を下すこととなりますので、3塁審は2塁審に裁定を一任しなければなりません。(アマチュア野球内規⑦参照)

〔公認野球規則 5.09(c)(1)〕

飛球が捕らえられた後、走者の再度の触塁(リタッチ)を果たす前に、身体あるいはその塁に触球された場合、アピールがあれば、走者はアウトになる。“リタッチ、”とは捕球後、塁に触れた状態から次塁へスタートすることをいう。



〔事例2〕1アウト走者1塁。2B-1Sで1塁走者がスタート。打球はライトフライ。フライを捕球した右翼手は、飛び出した1塁走者をアウトにしようと1塁へ送球しましたが、悪送球となり、ボールデッドとなりました。審判員は、1塁ベースに正しく再度、触塁した走者に対し、2個の塁を与え3塁への進塁を促しました。1塁走者は、そのままマウンドを横切るような形で2塁を踏まず3塁へ達しましたが・・・? 投手が投手板に着き、プレイが宣告された後、投手板から軸足を正しく外し、2塁へ送球。送球を受けた2塁手は塁上で1塁走者の2塁空過のアピールをしました。

ここで質問です。1塁走者は、安全進塁権を得ているので、直接3塁へ進んでもいいのでは・・・?

「安全進塁権が認められたときでも、走者が、進塁または逆走するにあたっては、各塁を正規に触れなければならない。

(5.06(b)(1)【注1】)」とされていますので、アピールがあれば走者はアウトになります。

ボールデッドのもとでは、空過した塁の次の塁(このケースでは3塁)に達すれば、その空過した塁(2塁)を踏み直すことは許されません。(5.09(c)【規則説明③】)

また、ボールデッド中はアピールすることができませんので、この事例の守備側チームが行ったように、インプレイの状態になった後、正しくアピールを行えば走者はアウトになります。



さて実例【第94回全国選手権大会での1シーン】でさらにルールの勉強を深めていきましょう。

〔事例3〕1アウト走者1・3塁。2B―2Sで投球と同時に両走者がスタート。打者はショートライナーを放ち、遊撃手がダイレクトで捕球(2アウト)。飛び出した1塁走者をアウトにするため、遊撃手は1塁へ送球しました(3アウト)。このとき、スタートを切っていた3塁走者は、1塁走者がアウトになる前に本塁を踏んでいました。得点は入るのでしょうか？3塁走者は正しく離塁をしていないようですが…？

この事例ですが、飛び出していた1塁走者のアウトは、フォースアウトではありませんので、第3アウトの成立と3塁走者の本塁への到達とどちらが早かったのかということがポイントになります(タイムプレイ)。

3塁走者は、1塁走者がアウトになる前(3アウトになる前)に本塁に達していますので、この時点で得点が入ることになります。(このとき、球審は本塁を指でポイントするとともに、「スコア」とコールし本塁到達が早かったことを明示していました。)

しかし、1塁走者と同様に3塁走者も投球と同時にスタートしており、正しく再度の触塁(リタッチ)を果たしていないことから、守備側のチームは3塁走者に対するアピールを行っていただければ得点されることはありませんでした。

第3アウトが成立した後、ほかにアピールがあり、審判員が、そのアピールを支持した場合には、そのアピールアウトが、そのイニングにおける第3アウトになるからです。(5.09(c))

このゲームでは、守備側のチームが3塁走者に対するアピールを行わなかったことから、得点1が記録されることになったのです。イニングが終わったときのアピールは、守備側チームの投手および内野手がフェア地域を離れたときに消滅することになりますので、守備側チームのアピールが消滅した時点でスコアボードに得点1が表示されました。



※「事例3」は、野球規則の「むずかしさ」や「複雑さ」を表現している(いろいろなルールが重なっている)ものです。

「事例3」の関連規則を記しておきます。

【定義等】 ・ 定義2「アピール」

・ 定義2「アピール」

守備側チームが、攻撃側チームの規則に反した行為を指摘して、審判員に対してアウトを主張し、その承認を求める行為である。

・ 定義30「フォースプレイ」

打者が走者となったために、塁上の走者が、規則によって、その塁の占有権を失ったことが原因となって生じるプレイである。

・ 5.09(b)(6)「フォースアウト」

打者が走者となったために、進塁の義務が生じた走者が次の塁に触れる前に、野手はその走者またはその塁に触球した場合(⇒フォースアウトで走者がアウトとなる)

(※ このケースでは、1塁走者のアウトは、フォースアウトでないことが分かりますね。)

・ 定義66「リタッチ」

走者が、規則によって帰塁しなければならない塁へ帰る行為をいう。

【注】「リタッチ」には、①飛球が捕らえられたときに離塁していた走者が、進塁の起点となった塁に帰塁する行為と、②飛球が打たれたとき塁にタッチして、野手が捕球したのを見て次塁へスタートする行為の二つがある。

(※ このケースでは、3塁走者は、正しいリタッチを果たしていませんね。)

【得点】

・ 1.04

打者が走者となり、正規にすべての塁に触れたときには、そのチームに1点が記録される。

・ 5.08(a)【例外】

第3アウトが次のような場合には、そのアウトにいたるプレイ中に、走者(1、2にあたる場合は全走者、3にあたる場合は後位の走者)が本塁に進んでも、得点は記録されない。

(1) 打者走者が一塁に触れる前にアウトにされたとき。

(2) 打者がフォースアウトされたとき。

(3) 前位の走者が塁に触れ損ねてアウトにされたとき。

(※このケースでは、第3アウトが(1)または(2)でないことから、3塁走者の得点が記録されるのですね。)

【タイムプレイ・得点の明示】

- ・ 5.08(a)【注1】

第3アウトがフォースアウト以外のアウトで、そのプレイ中に他の走者が本塁に達した場合、審判員は、その走者にアピールプレイが残っているか否かに関係なく、本塁到達の方が第3アウトより早かったか否かを明示しなければならない。

【アピール権の消滅時期】

- ・ 5.09(c)

インニングの表または裏が終わったときのアピールは、守備側チームのプレーヤーが競技場を去るまでに行わなければならない。

“守備側チームのプレーヤーが競技場を去る、とあるのは、投手および内野手が、ベンチまたはクラブハウスに向かうために、フェア地域を離れたこと意味する。

(※このケースでは、投手および内野手がフェア地域を離れ、アピール権が消滅した時点で得点1が記録されました。)

このようにアピールプレイに関しては、ルール上複雑な面もありますが、実戦形式の練習や練習試合で習得していきたいものです。

皆さん、これからも体力や野球技術の向上と同様に、ルールの知識習得にも努めていきましょう！

我々、審判委員も皆さんと共にグラウンドで頑張ります。これからもよろしくお願いします。



これまで9年にわたって掲載してきました『高校野球のマナーとルールを学ぼう』も第100回という区切りを迎えることとなりました。

長い間、当コーナーをご覧いただき、マナーとルールについて勉強になったと思います。

今後は、次の100回を目指して、公式試合や練習試合を通じて生じた様々な事例を分かりやすく解説する新コーナーを設けていきたいと思っています。

高校野球に携わる指導者や選手の皆さんが、「こんなプレイ、どうなるの?」といった疑問を解消し、ルール面やマナー面の習得に役立てるようなものにしたいと考えていますので、引き続き当コーナーを楽しみに、また今後にかかす材料にしていきたいと思っています。

イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

上: 佐野 萌々霞さん (3年)

中: 重見 綾乃さん (3年)

下: 松下 大地さん (3年)